

事業家 佐々木かをり 氏と語る

世界を目指す若者へのメッセージ



群馬の若者が世界に目を向け、グローバルな視点で自ら考え動き出すきっかけを作り出すとともに、グローバル始動人育成の機運を醸成することを目的とした、「ぐんまグローバル始動人テイクオフフォーラム」が開催され、県内の高校生以上の学生が12名参加しました。

第一部では、「若者はこの先世界とどのように繋がっていけばいいのか」をテーマに、日本のダイバーシティの第一人者である事業家 佐々木かをり氏と山本一太群馬県知事のスペシャル対談が行われ、最後には参加学生とのQ&Aセッションも設けられました。

第二部では、外国人グローバルメンターを入れた3~4名1グループとなり、「若者はこの先世界とどのように繋がっていけばいいのか」についてディスカッション形式のワークショップを実施。その後、各参加者が自ら考えたアクションプランを発表しました。

第一部：『スペシャル対談』

事業家 佐々木かをり 氏 × 群馬県知事 山本 一太

トークテーマ① 世界に目を向けたきっかけ



海外で学ばれたことのあるお二人から、なぜ海外に目を向けたのか教えていただきました。

山本一太群馬県知事（以下、山本）：洋楽に興味があったので、歌詞の意味を知りたくて英語の勉強を始めました。

また、ジャーナリストになってアジアを取材したいという思いがあったので、アメリカの大学院で勉強することを決めました。

佐々木かをり氏（以下、佐々木）：私は、外国語が必修だった高校に通っていました。その後進学した日米会話学院で留学プログラムにたまたま応募したのが、アメリカへ留学したきっかけでした。海外旅行に行ったこともなく、海外に行くなら奨学金で支援してもらえるこの留学プログラムしかないと思い応募してみたところ選ばれたので、これが最初で最後の海外経験だと思い渡米しました。

海外へ出てみて感じたこと



山本：アメリカでの留学経験、JICAでの海外経験を経て、日本から出て「外から日本を見る」経験がすごく大事だと思いました。外に出てみると、日本の置かれている位置や自分の置かれている位置が見えたのでとても貴重な経験でした。

佐々木：留学から帰ってきた時は、文化の違いなどからアメリカのことが好きではなかったです。24・25歳の時に母の一言がきっかけで、一ヶ月仕事を休んで学生の時に会った人、その後出会った人を訪ねる旅に出ました。その旅では色眼鏡を外して、真っ新たな気持ちで人と関わることにしました。そこで出会った人は素晴らしい人ばかりで、留学時代は「自分の視野が狭くて、受け入れられなかったのではないか、良いことに気が付かなかったのではないか」と思い、国ではなく結局は人だということに気付いて帰って来ました。



佐々木：その後、テレビ番組のレポーターになり25カ国以上の国を訪問して、難民キャンプや人権の取材をして、日本の豊かさ、自分がどれだけ恵まれているかを認識し、感謝できるようになりました。

当たり前の生活に感謝して、大きな目的を持って仕事したいと思ったのも海外に行ったからだと思います。

山本：外に出たことによって、日本の強み、課題、他の文化の素晴らしさや違いを冷静にみることができたので、それはとても良かったです。

佐々木：自分が恵まれていることを認識できたことは、私にとって、とても大きなことでした。その事を認識できていると、小さいことを気にせず、もっと世の中の役に立つ仕事ができるという気持ちになるのです。

トークテーマ② グローバルな視点を持つために



どうしたらグローバルな視点を持つことができるか、お二人の経験を基に教えていただきました。

佐々木：グローバルかローカルかは別にして、ダイバーシティ（多様性）は、力を合わせてより良いものをつくるという目的があります。日本のことわざに、「3人寄れば文殊の知恵」というものがありますが、それがダイバーシティの本質だと思っています。

グローバルな視点というのは、自分の目線だけではなく、様々な角度から物事をみるということだと思います。

なので、海外に出なくてもグローバルな視点は養えます。例えば、私が運営しているイー・ウーマンには「働く人の円卓会議」という、一つの社会問題や事例に対し自分の意見を述べるコーナーがあります。そこでは他人の意見を批判しないで、他人の意見を聞いて考えて選び直して行動するという脳の訓練ができ、それがグローバルな視点を持つということだと思っております。



山本：今はデジタルの時代。誰もがグローバルになれる。Youtubeなどで海外の報道番組やアメリカの上院公聴会がキャプション付きで観られます。グローバルな視点を持ちたかったら、Youtubeにアクセスするだけでできる、そういう時代なのではないかと思います。

佐々木：まさにそうですね。Podcastでは、有名大学の講義が聞けたりします。インターネットでもテレビでも、世界中から生の情報が入ってくる時代なので、これで英語ができない、グローバルになれないというのはあり得ないと思います。

山本：勉強する理由は自由になるため、つまり人生の選択肢が増えるということです。英語教育に関して、日本もスウェーデンのように英語の番組がそのままテレビで放映されて、子供達が興味を持って自分で調べて学ぶという環境ができたらいいなと思います。



トークテーマ③ 若者はこの先世界とどのように繋がっていけばいいのか

この変化の時代に、未来を担う若者はこの先世界とどのようにつながっていけばいいのか、お二人よりアドバイスをいただきました。



山本：グローバルにはいつでもなれる。何かを勉強したり突き止めようとすると、グローバルにならざるを得ない時代になっている。

例えば、現在のウクライナ情勢は、国際社会との繋がりを意識するきっかけだと思います。これからは何が起こるかわからない時代、自分で考えて、自分で決めたことをする、他の人が目指さない領域で動き出す、勇気を持った「グローバルな始動人」を目指していただきたいです。



佐々木：他の人のことを考えられて、他の人の意見を含み入れることが一番の強さであり魅力で、それがグローバルということだと思います。学生時代に色々な人と繋がって、関係を豊かにしていくと良いのではないかと思います。

Q&Aセッション

Q1. 新しいことを始めたいと思っても臆病になってしまうのだが、一步を踏み出すにはどうすればいいか？



佐々木：まずやってみる。やらない方が怖いし、もったいないと思います。いろいろ体験すると、ひらめきがあったり選択肢が増えるので、是非やってみてください。

Q2. 国際的な物事を捉える時に、気をつけていること



佐々木：グローバルな視点を持って捉えるようにしてみてください。自分の思い込みだけでなく、他にどんな視点があるか考えて、色々な角度から物事を見てみてください。

Q3. 情報過多のこの時代に、どのように情報を精査したらいいか？

佐々木：入ってきたものから考えれば良いのではないのでしょうか。報道番組にしても、新聞にしても、まずは色々目を通して見て、自分がどう考えるかということをお聞きしたい。

山本：フェイクニュースに誤魔化されないITリテラシーは大事だと思います。色々見てみて、比較して判断する訓練が必要かなと思います。

Q4. どのようにやりたいことを見つけたか？



佐々木：私は何も決めないで、ここまできました。

人生で何を選んでも失敗はないと思っています。失敗があるとするならば、選んだことをこれではなかったのかもしれないと思い、今に全力を尽くさないこと。一生懸命目の前のことをしていれば、道は拓けると思います。

山本：悩むのは当たり前で、決めなくても良いと思います。

「自分で決めたことに向けて努力すれば、後悔はない」

後悔するのが一番良くないので、それだけ頭に置いておけば焦る必要はないと思います。



第一部では、人生の大先輩であるお二人より「グローバル始動人」になるためのヒントを多く教えていただき、学生の意識にも早速変化があったようでした。

すでに世界と繋がれる環境は整っているので、自分次第で道は拓けるということで、自ら起こすアクションの大切さが伝わったのではないのでしょうか。

第二部：ディスカッション＋アクションプラン発表



第二部からは、参加学生が主役となりディスカッションとアクションプラン発表が行われました。

NPO法人キッズバレイ代表の星野麻美氏をファシリテーターに迎え、第一部同様「若者はこの先世界とどのように繋がっていけばいいのか」というテーマについてディスカッションを行いました。参加者は5グループに分かれ、「グローバルな視点を持ってもらう」ため、スウェーデン、ブラジル、米国、中国、ケニア出身の外国人がグローバルメンターとしてディスカッションに参加しました。



参加者は、第一部の知事と佐々木氏からのアドバイスを取り入れ、相手の意見を聞き、自らの考えを見直しながらディスカッションに臨みました。



テーマ① 『今、自分が考える「グローバル始動人」とは？』

まずは、自分が考える「グローバル始動人」について、ブレインストーミングを行いました。皆さん、制限時間いっぱいまで手を動かしていました。



その後はグループ内で自分の意見を発表、また各グループごとに発表し、自分以外の視点で「グローバル始動人」について考えました。



テーマ② 『今日から「グローバル始動人」に向けてあなたが始める第一歩は?』

テーマ①で出てきた「グローバル始動人」の要素、気になるものをピックアップし、その要素をもった「グローバル始動人」になるために、どんな第一歩を踏み出すことができるのかグループディスカッションを行いました。



各グループ沢山の意見が出て、模造紙には付箋紙の花が咲きました。



最後には、自由に他のテーブルを回って他のグループの意見を聞いて見て、より多くの視点からテーマについて考えました。



アクションプラン作成＋発表

そして、最後には自分が「グローバル始動人」になるために、どのようなアクションを起こしていくか、第一部の対談と第二部のディスカッションを通して考え、皆の前で発表しました。



「失敗を恐れず、とにかくやってみる」、「他者の意見を取り入れる」といった、早速今日から始められるようなアクションプランが発表され、学生は「グローバル始動人」への第一歩を踏み出しました。